

特別賞

水と環境

御成門小学校 六年 原田啓矢

今、ぼくたちは、のどがかわいたら水を飲み、疲れたらお風呂に入るといふあたりまえの生活をしています。しかし、今、世界では水に危機がせまっているのです。

主に、地球にある水は海水です。しかしそれは塩水のため、使うことができません。さらに、残りの淡水のうち、南極や北極の氷や地下水がほとんどで、人間が使える水はわずか全体の〇・〇一%しかないのです。

ぼくは、この〇・〇一%で、よく七〇億人の人が生活しているなど思いました。しかし二〇二五年までに、二八億人もの人々が水不足に直面すると予測されていると知りました。そして、まだ小さい子どもも水をくみにいつている場所もあるそうです。

ぼくは、改めて、日本がめぐまれていることを実感しました。しかし、日本も水不足がおこっています。日本は国民一人あたりの水の量は世界で八二位で世界平均の五分の一以下です。なのに、一人あたりの使用料は四位で、平均の二倍以上もあります。その上、今年は集中豪雨の一方、関東では梅雨に雨があまりふらなかったせいで、利根川水系のダムの平均貯水率は六三%になっています。水不足はとても身近なんだと思いました。

このような水不足は、水需要全体が五〇年前と比べて三倍になったことが大きな原因です。このような大量消費を主にしているのは先進国です。

水不足はぼくは水だけの問題ではないと思います。作物を作るときや、工業製品を作るときにも水は必要です。もしこのまま水不足が進めば、水以外のものも不足してしまうかもしれません。

このような水不足にはもちろん対策があります。今までに水不足対策を話し合う会議が行われてきましたが、やはり一番は、一人一人の意識です。例えば、お風呂でシャワーでなく、風呂の水を使ったり、じゃ口をこまめにとじたりできます。こうして、水問題を防いでいきましょう。

ぼくは政界の水問題がとて深こくだとわかりました。このままでは、水をめぐる争いがおこるかもしれません。ぼくは、これから節水をせっ極的に行い、日ごろから水に対しての意識を高めていきたいです。そして、もつと多くの人に事実を知ってもらい、これからの水問題をくいとめ、みんなが幸せにくらせる世の中に使いたいです。